



芸術文化観光専門職大学  
Professional College of Arts and Tourism

2021 年度  
芸術文化観光専門職大学  
地域連携事業報告書

**RIC PROJECT**

地域リサーチ&イノベーションセンター  
Research & Innovation Center

**A** R T S & **T** O U R I S M



◆目次

テーマ	担当教員	連携先	頁
高校コミュニケーションワークショップ	平田オリザ教授、杉山至准教授、 児玉北斗講師、平田知之講師、 石井路子講師、山内健司講師、 姚瑤講師、河村竜也助教、 飛田勘文助教	但馬全域	2
豊岡市ジュニアプレカレッジ事業	平田オリザ教授	豊岡市	3
豊岡市コミュニティ・ツーリズム推進事業	高橋伸佳准教授	豊岡市	4
豊岡市鉄道利用者ニーズ調査分析事業1	中村敏助教	豊岡市	5
豊岡市鉄道利用者ニーズ調査分析事業2	中村敏助教	豊岡市	6
『鉱石の道』活用促進プロジェクト	山中俊之教授、石井路子講師	養父市・朝来市	7
朝来市職員人材育成事業	山中俊之教授	朝来市	8
朝来市起業人材交流支援プロジェクト	中村嘉雄助教、中村敏助教、 辻村謙一助手	朝来市	9
学生による香美町フィールドワーク事業	山中俊之教授	香美町	10
起業支援・しごと創出拠点の設置と運営に関する助言・提言事業	中村嘉雄助教、辻村謙一助手、 佐藤善信客員教授	香美町	11
諸寄地区における観光産業活性化事業	中村敏助教、辻村謙一助手	新温泉町	12
新温泉町講師派遣支援事業	山中俊之教授、高橋伸佳准教授、 石井路子講師	新温泉町	13
夢ホール運営等研修及び人材育成事業	杉山至准教授、近藤のぞみ講師、 井原麗奈助教	新温泉町	14
The Present Perfect in English: From Semantic, Evolutionary, and Contrastive Perspective	傅建良講師	独自研究	15
シリーズ “パフォーミング・ライブラリー（演じる図書館）”	学術情報センター （熊倉敬聡教授）	独自研究	16
『GEIDO（藝道）論』（春秋社、2021）	熊倉敬聡教授	独自研究	17
“多様性について” 「現代社会」の高校特別講義	高橋加織助教	独自研究	18
ユニバーサルツーリズム（UT）人材養成に係る研究	中村敏助教	独自研究	19
豊岡産産業の現状と課題 – 地域商標の活用を中心に –	福嶋幸太郎教授、辻村謙一 助手、中村嘉雄助教、 中村敏助教	独自研究	20
キャッシュ・マネジメント・システム（CMS）	福嶋幸太郎教授	独自研究	21
『世界の民族超入門』（ダイヤモンド社）	山中俊之教授	独自研究	22

◆テーマ **RICプロジェクト「高校コミュニケーションワークショップ」**

TAJIMA

◆メンバー (★企画 □主講師 ○サブ講師)

(本学教員)

★□石井路子	★□河村竜也	○児玉北斗	□杉山至	★□田上豊
★□飛田勘文	□平田オリザ	★□平田知之	★□山内健司	○姚瑶

(非常勤講師)

○井坂浩	○井上三奈子	○歌川達人	○熊谷祐子	○酒井美佳
□□高橋智子	○永田莉子	□○福田倫子	★□村井まどか	○山田遥野

◆キーワード コミュニケーションワークショップ 演劇的手法 但馬3市2町 高校

◆概要

令和3年度は、「生徒それぞれの特性に応じた自己の潜在的コミュニケーション能力を引き出す」ことを目的として、演劇的手法を用いて身体と言語をフルに用いた集団的な活動（アクティビティ）を行い、自身の特性や他者の多様性を理解して、自立的に協働して学べる学習集団をつくるワークショップを実施した。

このワークショップに演劇的手法を用いることにより、「知識・技能」の修得だけではなく、全身で学ぶことで「思考力・表現力・判断力」を高め、他者との関わりの中で、「主体性・多様性・協働性」を培うことができる。

市町との連携事業として、但馬地域3市2町の高校全17校において実施することにより、但馬地域のどの高校に進学してもコミュニケーションワークショップを受けられる環境が整っており、エリアとしてのシームレスなコミュニケーション能力向上に貢献している。



図1 但馬地域での実施高校



図2 文部科学省が示す学力の3要素

◆成果

令和3年度は、但馬地域全体の全17校で97回のワークショップを実施した。共通の目的のもと、高校からの要望とファシリテーターを務める教員それぞれの特性を生かしたワークショップを行った。

※各校で実施したワークショップをまとめた成果報告書を2022年3月に発行予定。



図3 高校での実施の様子

◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市ジュニアプレカレッジ事業」**

◆研究者 教授 平田 オリザ

◆キーワード 小中高大連携

◆概要

豊岡市内の中学生が、高等教育機関である大学というものを知る機会を創出し、知的好奇心を高めることで、主体的な進路選択に対する動機付けにつなげるため模擬講義及び施設・授業見学を実施した。

市立中学3年生、9校：694名を対象に実施。

◆事業内容

(1) 日程

(2) 模擬講義 (約30分) 講師：平田オリザ学長

- ・芸術文化と観光を学ぶ意義
- ・アートマネジメントとは
- ・大学入試改革及びこれからの社会で求められる力
- ・芸術文化観光専門職大学の紹介

日程		学校名	クラス数	見学班	学校名	クラス数	見学班
10月18日 (月)	前：10:00～11:10	豊岡北	2	4			
	後：10:40～11:50	豊岡北	2	4			
10月25日 (月)	前：10:00～11:10	日高東	2	3	日高西	1	2
	後：10:40～11:50	日高東	2	3			
11月11日 (木)	13:40～14:50	港	1	1	竹野	1	1
		但東	1	2			
11月15日 (月)	前：10:00～11:10	豊岡南	2	3	城崎	1	1
	後：10:40～11:50	豊岡南	3	4			
11月16日 (火)	13:30～14:40	出石	3	4			

(3) 施設・授業見学 (約30分) 約20名/班で学内見学

《教育棟》1階：RIC、学術情報館、カフェ 2階：ラーニングcommons 3階：教室

《実習棟》1階：劇場、ホワイエ、小劇場、楽屋、大道具・小道具室

2階：劇場、スタジオ2、更衣室、トレーニングルーム

《授業》「コミュニケーション演習」、「身体コミュニケーション実習」、「舞台芸術基礎実習」等



図1 模擬講義の様子



図2 施設見学の様子

◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市コミュニティ・ツーリズム推進事業」**

◆研究者 准教授 高橋 伸佳

◆キーワード ヘルスケア スポーツ アウトドア 新しいライフスタイル With コロナ・After コロナ

◆概要

コロナ禍で生まれた価値観（健康志向、環境への配慮、自然志向）に対応した、リピーター、周遊・回遊、滞在につながる新たな大交流の仕組み・観光プログラムを開発する。  
また、新規市場開拓のため、観光資源のコンテキスト転換を図り、拡大期にあるアウトドア、健康市場からの需要を取り込む施策に寄与するものとし、その可能性と方向性を探る取組みを展開する。

◆事業内容

1. 豊岡コミュニティ・ツーリズム推進プロジェクトキックオフセミナー「ヘルス&スポーツツーリズム～コロナ後の新しいツーリズムの形を考える～」と題したセミナーを観光事業者を中心とした市民対象に開催
2. キックオフセミナー参加者から新たなコミュニティ・ツーリズムを考えるプロジェクトチームを結成しワークショップを開催  
プロジェクトチームは①ワーケーション&プレジャー②アウトドア&スポーツ③リトリート&ビューティの3チームを結成し、それぞれ定期的にワークショップを開催
3. プロジェクトチームの意見を集約し、豊岡市コミュニティ・ツーリズムの基本構想・戦略を策定

◆成果

- ① 豊岡市コミュニティ・ツーリズムの基本構想を策定
- ② 豊岡市コミュニティ・ツーリズムの基本戦略を策定

事業実施

・キックオフセミナー 10/29 参加者数 午前の部：29人 午後の部：34人

・ワークショップ（プロジェクトチームごとに開催）

プロジェクトチーム名	メンバー数	開催日
ワーケーション&プレジャー	8人	12/20、1/18、2/14
アウトドア&スポーツ	12人	12/21、1/11、2/10
リトリート&ビューティ	10人	12/21、1/11、2/10



図1 キックオフセミナーの様子



図2 プロジェクトチームによるワークショップの様子

◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市鉄道利用者ニーズ調査分析事業」1**

但馬地区のメジャー鉄道サービス（JR）は顧客本位になっているか

◆研究者 助教 中村 敏

◆キーワード 鉄道利用客 観光鉄道 user experience

◆概要

豊岡駅に入線している京都丹後鉄道は、KTR から WILLER G. が引き継ぎ、日常利用満足度向上、観光目的利用者の満足度を高める観光列車導入でブランディングに成功し、経営改善を果たしている。本研究は、JR の鉄道利用者に焦点を当て、但馬地区のメジャー鉄道サービス（JR）は顧客本位になっているかを探る。実施内容は、調査票調査とヒアリング調査を実施し、顧客本位の鉄道の方向性を探る。

◆仮説設定と調査項目

Hypothesis1 日常利用客にとって満足感の高い運用か →通勤・通学のための利用者に聴く

- ・Frequency の適切さ 60分ヘッドのパターンダイヤの実現できているか
- ・日常利用客の不便さはないか 車両 駅 待合 切符購入
- ・アクセシビリティのクオリティは適切か
- ・「ICOCA」等の IC カードサービス
- ・早朝、最終列車時刻適切な時間帯か
- ・優等列車への乗り換え、東京、京阪神からの乗り継ぎは適切か、など

Hypothesis2 観光客にとって観光列車などの魅力的な列車サービスが運用されているか→旅行者に聴く  
および成功事例の調査えちごトキめき鉄道観光急行《雪月花》の体験とヒアリング調査

- ・但馬：「瑞風」の通過するコースにはなっているが、メインの寄港地にはなっていない
- ・観光列車、グルメ列車などの定期的な運用が少なく、京丹後鉄道のような列車サービスを希望するか。
- ・現在ラッピング列車の【うみやまむすび】を多用して魅力的な観光を演出することができるか。

Hypothesis3 地域の観光資源を活かした貴重な体験を演出し提供できているか→代理店などに聴く

- ・但馬は、城崎温泉、出石、香住などの観光地とグルメ、スポーツ特化の神鍋高原など、スポットにはことかかない。経験価値によりブランドが構築されるが、よりよい経験価値の創出と鉄道の果たす役割を旅行代理店などのビジネス視点で探る。

◆現在までの取り組み 観光列車の事例検証は別報告

利用顧客の調査票調査 調査の様子

表 1 調査実施日

調査実施日	実施駅
11月4日（木）	豊岡駅
11月6日（土）	城崎駅
11月7日（日）	香住駅
11月10日（水）	江原駅
11月15日（月）	和田山駅
12月12日（日）	香住駅
12月13日（月）	香住駅
12月15日（水）	城崎駅



図 1 豊岡駅での調査票調査の様子

表 2 調査有効数

有効標本数	標本数
豊岡駅（通勤通学）	43
城崎駅（観光）	44
香住駅（通勤通学）	50
香住駅（観光）	47
江原駅（通勤通学）	49
和田山駅（通勤通学）	46



図 2 香住駅にて浜坂行列車の調査の様子

◆今後の取り組み予定

- ・現在、顧客アンケートを集計中、多変量解析を使用
- ・ヒアリング調査は、えちごトキめき鉄道観光急行《雪月花》の体験とヒアリング調査は完了
- ・旅行代理店ヒアリングは計画中

## ◆テーマ RICプロジェクト「豊岡市鉄道利用者ニーズ調査分析事業」2

えちごトキめき鉄道観光急行《雪月花》の成功事例から学ぶ観光資源＝鉄道の実例

TOYOOKA

◆研究者 助教 中村 敏

◆キーワード 第三セクター 観光急行 鉄道観光資源

### ◆概要

新幹線開通後、法律上自動的に在来線は第三セクター鉄道となり、減収経営と自治体支援が課題になっている。そんな中、えちごトキめき鉄道は、顧客中心経営に徹し、コロナ禍でも優等列車は乗降客を伸ばしている。本研究は、観光急行《雪月花》の運行に関する創意工夫の聴取や体験乗車での発見に関するものである。

### ◆観光急行《雪月花》の成功要因

- ・ハード、ソフト、コンテンツの絶妙な組み合わせで顧客獲得、リピーター醸成に成功した。
- ・秀逸な車両デザイン：P デザイナー川西康之氏による、オールメイドイン新潟と屋根まで開口している大窓キャビンデザイン、真っ赤なスタイリッシュ新造車両。大ラウンジ方式の一号車とテーブル席の二号車による顧客のニーズにこたえるインテリアデザイン、など日本の特別列車でも秀逸な出来栄。
- ・フードプロデューサー監修の創作料理：岩佐十良氏とミシュランシェフ飯塚隆太氏で生み出した「和食フルコース」の車両向け創作メニュー。午前午後で異なる食材、クリスマスバージョンなど創意工夫の宝庫。
- ・鉄道乗車自体が顧客満足：新幹線駅上越妙高と糸魚川、はねうまライン（信越本線）、ひすいライン（北陸本線）を組み合わせた標準運行と冬季の降雪をさけた地域巡り運行など、多彩なプランを提示。

### ◆観光急行《雪月花》がもたらしたもの

- ・えちごトキめき鉄道観光急行は、観光資源のない地域でも、魅力的鉄道そのものが大きい観光資源として成果を示す事例となった。
- ・観光急行《雪月花》は、多くのステークホルダー（従業員、フードコーディネーター、デザイナー、地域の料理などの供給者）が衆知を集めて、顧客本位のサービスに徹したから実現できた。
- ・コロナ禍で、県をまたいだ移動が禁止されたとき、地域の住民に廉価に開放して地域のファンづくり、ブランドを支える人々の創成に務め、ピンチをチャンスに変えるしなやかな風土を築いた。
- ・ルーティンの運行だけでなく、クリスマスバージョン、プレミアムバージョン、冬季バージョンなどの多様なプランの展開と代理店の団体利用などにも対応する多彩な観光商品提供が好循環（スパイラルアップ）に繋がる。



図1 観光急行《雪月花》外観



図2 ラウンジ型のインテリア



図3 クリスマスバージョンデザート



図4 天井まで窓のインテリア



図5 ミシュランシェフ監修の三段重



図6 よく鍛えられたギャレアテンダント

## ◆テーマ RICプロジェクト『鉱石の道』活用促進プロジェクト

◆研究者 教授 山中俊之、講師 石井路子

◆キーワード ワークショップ 鉱石の道 日本遺産

YABU  
ASAGO

### ◆概要

平成 29 年 4 月に日本遺産に認定された「銀の馬車道 鉱石の道」は、中瀬鉱山を起点に、明延鉱山→神子畑選鉱場→生野鉱山→飾磨港へと繋がるルートにて、地域ごとにその魅力をアピールして、多くの観光客を魅了しているものの、一方で、実質的な『鉱石の道』の起点である『明延鉱山』（養父市）～『神子畑選鉱場跡』（朝来市）のエリアは、一円電車をはじめとする多くの産業遺構が残る、当該日本遺産の重要な構成エリアにも関わらず、他エリアに比べて、観光往来が少なく、注目度も低いものとなっている。

現在、養父市と朝来市は、共通の財産である産業遺構並びに観光資源である当該エリアを改めてフォーカス、再評価することにより観光振興に繋げるアイデア等を考察、共同研究を行っており、民間のマウンテンバイク事業者とともに、明延～神子畑の山中を踏査し、ハード整備の可否や市場ニーズへの対応などを含めて、トレイル整備の調査を行っている。

本プロジェクトは、上記調査と関連したソフト調査と位置づけ、お互いの地域の魅力を再発見するとともに、「道」をつなぐこと（トレイル整備）の必要性、整備された場合の事業検討や両地域の観光の目指すべき方向性等を議論し、地域の気運醸成を高めるため、地域住民や関係者とワークショップを行った。

### ◆事業内容

①アイスブレイク（石井路子） ②グループディスカッション（山中俊之）

※その他、ハード整備関連の報告・提案あり

### ◆成果

本プロジェクトは、地域住民・各自治体関係者を参集し、このハード調査を含む明延エリアと神子畑エリアの現状と今後の展開をワークショップにより議論し、情報共有と意識の醸成を図るものとして実施した。地域住民と2つの自治体職員が一同に会する貴重な機会となった。

グループワークの前にはアイスブレイクを行った。アイスブレイクは身体を使って参加者の心の距離を縮めるプログラムを組み立て、スムーズにグループワークに入ること、ディスカッションを円滑に進めることが効果として現れた。

グループワークでは、参加者が5グループ（1グループ5～6人）にわかれ、それぞれがこれまで「鉱石の道」に対して行ってきた事業や今後に向けた思いなどを共有し、新たな価値を見出すための様々な意見や提案が出た。

具体的な提案内容は、「かつて存在した索道を復活させリフトで繋ぐ」、「物理的に道を繋ぐ以外にも山全体を一体と考えコンセプトを設定（アクティビティ、ARTの山など）し、各所で様々なコンテンツを創出し提供していく」等が出された。また「明延エリア・神子畑エリアごとにテーマを設定し、両方のエリアを体感することで一つのストーリーで繋げる」といった提案もあった。

ワークショップ全体を通して、これからも地域づくりの視点から、このような取組を推進していく必要性を感じた。



図1 グループディスカッションの様子



図2 アイスブレイクの様子

図3 坑道見学(事前)



◆テーマ **RICプロジェクト「朝来市職員人材育成事業」**◆研究者 教授 山中 俊之

◆キーワード 自治体職員研修 人材育成 政策立案

## ◆概要

地方自治体を取り巻く環境が急激に変化していく中、地方自治体においては、自己決定・自己責任のもとに、市民ニーズを的確に捉え、地域の課題を明確にしたうえで、課題解決に取り組んでいくことが求められている。

朝来市は「朝来市人材育成計画」に基づき、職場外研修（Off-JT）を実施することで、業務遂行に必要なスキルを習得することを目指しており、若手職員には政策形成能力の向上を目的とした、政策立案の研修を企画しており、大学へ研修講師を招聘の依頼があった。

朝来市が直面している課題をテーマとして、講義や調査研究を通して、実践的な政策づくりの考え方や手法を学び、政策提案を行うことにより政策形成能力の向上を図ることを目的に実施した。

## ◆事業内容

全6回の研修を実施し、最終回では朝来市の幹部及び職員の前でプレゼンテーションを行った。

<研修内容>

- 1.開講・講義（リーダーへの期待と朝来市を取り巻く状況）
- 2.講義（政策立案のための課題解決の方法）
- 3.講義（大局的思考）
- 4.講義（あさご芸術の森での洞察）・チームでの検討①
- 5.講義（プレゼンテーションに向けて）・チームでの検討②
- 6.発表会・振り返り

## ◆成果（政策テーマ）

- ①あさごセーフティネット住宅の構築
- ②コロナ禍における支援策「3カ月試職」
- ③インクルーシブ社会に向けて～障害者、健常者の共に暮らし楽しむ場づくり～
- ④竹田城跡と既存資源の掛け合わせ～竹田城跡×地酒×温泉～

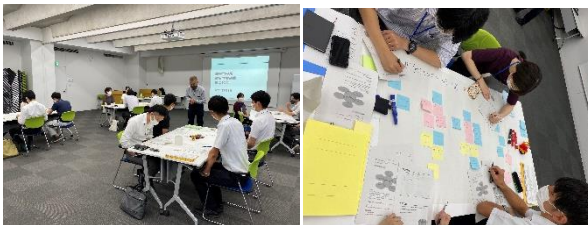


図1 研修の様子



図2 最終回・プレゼンテーション



図3 あさご芸術の森美術館での様子

◆テーマ **RICプロジェクト「朝来市起業人財交流支援プロジェクト」**◆研究者 助教 中村嘉雄、助教 中村 敏、助手 辻村謙一

◆キーワード ASAGOiNG Garden KOUBA 起業支援

## ◆概要

朝来市は、平成 29 年 10 月に起業人財交流拠点「ASAGOiNG Garden KOUBA」を開設し、市内での起業に向けて事業者のスタートアップや多くの方々の交流を支援している。さらに、事業者の独立に向けて、ビジネス機会の創出や魅力ある製品を情報発信する機会を設けている。

当該施設利用者を対象とした、起業や事業承継、第二創業などを専門とする学識経験者による、アドバイスを支援をする。また、当該施設利用者が大学との連携や交流を通じて、大学教員の知識やノウハウを提供し、全国から就学した大学生といった若者の意見聴取することで、トレンド調査や販路開拓を目指すなどの経営改善を行い、市内での独立を促進する。さらに、その連携の成果を発表することで、朝来市及び本大学の魅力を全国に発信する。

## ◆事業内容

KOUBA 利用者には、(1) 将来ビジョンの共有 (2) 創業に伴う基礎知識の習得 (3) 事業形態・経営計画・資金計画・販路開拓等の策定指導 (4) 創業に伴う手続きや補助金・借入金の申請 (5) その他創業に必要な知識の習得といった経営指導を行うことで、独立や第二創業に向けた支援をする。また交流事業を本学(7月)・朝来市「竹田」(11月)で実施し、竹田地域のリサーチとともに、学生と大学教員、KOUBA 利用者・竹田地域住民・朝来市役所職員を交えて、KOUBA や竹田の魅力と新たな起業家を発掘に向けた意見交換を行った。

## ◆成果及び今後の展開

リサーチや意見交換を踏まえて、学生より、地元の竹田地域の方々が「KOUBA」どのように捉えているのか、また「KOUBA」を応援していこうというような雰囲気があるのかという意見が出された。まず、地元の方々の意識を知っておく必要があるとの結論に達し、学生と地元の方々によるヒアリング調査を行うこととした。

KOUBA は、朝来市の竹田地域に位置しており、多くの観光客が訪れている「竹田城跡」の近くにある。

そこで、神戸の創業拠点を KOUBA のメンバーや学生とともに訪れる際、同様に観光地において小学校の跡地を活用したものづくり施設である「北野工房」を訪問し、学生目線によって多くの観光客に KOUBA を訪問する機会を創出し、新たに朝来市でもものづくりにチャレンジする人を増やす取組を行う。また、観光客が KOUBA を訪れる動線についても検討し、より多くの人に知ってもらうとともに KOUBA 内でも「ものづくり体験」、「カフェ」など楽しんでもらえる機会を創出する。今後、3月に神戸市「ANCHOR KOBE」で行われる「KOUBA」や大学を PR する場において、リサーチの成果を踏まえて、『今後のあるべき姿』を提案したいと考えている。

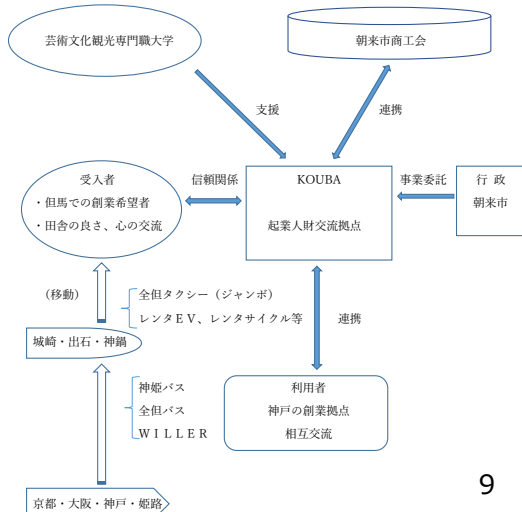


図1 大学での交流事業



図2 朝来市「竹田地域」でのリサーチ及び意見交換

## ◆スキーム図(案)



◆テーマ **RICプロジェクト「学生による香美町フィールドワーク事業」**

KAMI

◆研究者 教授 山中俊之

◆キーワード 観光・起業・PR 方法への提言 地域を知る 地域との交流

◆概要

香美町において教員・学生を交えたフィールドワークを実施し、観光地等の訪問や町民との交流を通して、観光面・起業面・PR 方法について、学生目線での意見を求める。

また、教員・学生に町内各地を訪問してもらい、町民や町職員との交流を通じ、新しい文化交流のきっかけとなることを目指す。

◆事業内容

- (1) 1泊2日でのフィールドワークの実施
- (2) 町内各地で町民との交流・意見交換
- (3) 町内各施設の訪問
- (4) 町職員及び関係機関職員への報告会（新型コロナウイルスの影響により未実施）
- (5) 参加した学生及び教員の香美町観光大使への任命

◆成果及び今後の展開

フィールドワークを通して、学生から積極的な意見やアイデアが見受けられた。また、町内各地で町民や町職員と交流し、様々な意見交換が行われた。今後、アウトプットし町施策へ繋がるような取り組みを実施する必要がある。

参加した学生からは、「香美町」の自然や文化に魅力を感じた学生も見受けられ、フィールドワーク実施後も、個人的に香美町へ訪問する学生も見受けられた。町側は魅力を知ってもらう機会となり、双方にとってプラス要素のある事業となった。



図1 フィールドワーク、意見交換会の様子



図2 新聞への掲載

◆テーマ **RICプロジェクト「起業支援・しごと創出拠点の設置と運営に関する助言・提言事業」**

KAMI

◆研究者 助教 中村嘉雄、助手 辻村謙一、客員教授 佐藤善信

◆キーワード 起業&地域ブランドの構築

◆概要

香美町では、人口減少に加えて過疎化・高齢化が進んでいる。地域の特産品である『カニ』や『但馬牛』など多くの魅力で観光客が多い地域ではあるものの、新型コロナウイルスの影響により、観光客が減ってきている。

こうした中、新たに香美町で起業する人が、近年増加傾向にあり、後継者不足の影響で廃業が増えている中において、ここ数年は企業数が差し引き増加に転じたことに注視し、その実態を調査することにより、更に起業家を増やす施策につなげたいと考えた。

また、豊富な地域産品に恵まれているが、新たな地域ブランドを今後どのように構築していくのかという大きな課題に直面している。すぐに結果が出るのは難しい課題であると思われるが、この課題解決に向けたブランディングへの取り組みを始めたと考えている。

そして、香美町の新たな地域ブランドを構築することにより、香美町（“香”+“美”の町）の魅力をもっと強化し、香美町で起業したいという人を増やすという相乗効果に繋げたいと考えている。町内での起業に向けた事業者のスタートアップを支援する施策や、事業者の独立に向けて、ビジネス機会の創出や魅力ある製品を情報発信する機会を設けるとともに、起業や事業承継、第二創業などを専門とする学識経験者による、アドバイスや支援を行うような取り組みに繋げていく。

◆事業内容

新規起業家へのヒアリング調査、地域ブランドの構築に向けた調査の結果を踏まえ、学生を交えた報告会を実施し、町役場や町内事業者、住民等に対する報告会を行う。

- (1) 将来ビジョンの共有
- (2) 企業家への学生ヒアリング調査
- (3) 地域ブランドの構築に向けた調査・映像の作成
- (4) 行政の施策への提言
- (5) その他起業に必要な知識の習得

◆期待される成果及び今後の展開

新規起業家への支援施策の実施や第二創業に向けた取組を支援する。後継者不在の企業において、倒産ではなく廃業が増えてきている中、資金不足等で悩んでいる起業家を志している方とマッチングすることにより、老舗企業の“のれん”を守ることができるとともに地域の雇用を守ることができる。

香美町は、海と山の自然が豊かな地域であることに加えて特産品も多く存在しており、たくさんの観光客が訪れている場所に立地している。地域ブランドの構築と併せて今後の起業家支援に結び付けていく。

香美町で最近起業した方々から、学生によるヒアリング調査を実施した結果を踏まえ、その結果に基づいた行政施策等への提言を3月の報告会で行う。

また、地域ブランドの現状と課題を映像として残し、今後のブランディング方向性を3月の報告会で示す。

◆スキーム図（案）



【図. 学生調査中写真】

◆テーマ **RICプロジェクト「諸寄地区における観光産業活性化事業」**

◆研究者 助教 中村敏、助手 辻村謙一

◆キーワード 日本遺産の認定 産学官+地域住民 地域活性化

## ◆概要

平成 30 年 5 月 24 日に「北前船寄港地・船主集落」として日本遺産の認定を受けた新温泉町諸寄地区は、地域全体でまちづくりに取り組む新たな組織「諸寄活性化委員会」を立ち上げ、活動を行っている。今後、さらに観光地としての発展を目指すため本学教員を派遣し、産学官+地域住民で連携を図り、地域活性化の活動や経済循環を基軸とした観光地づくりを目指す。

## ◆事業内容

- (1) 諸寄活性化委員会への参加
- (2) 日本遺産活用へ向けた協議
- (3) 事例紹介等を交えた勉強会・研修会の実施
- (4) 今後の取り組みや活動へ向けた助言・提言
- (5) 諸寄地区内で開催されるイベントへの参加及び助言・提言

## ◆成果及び今後の展開

諸寄活性化委員会への参加を実施し、「日本遺産認定までの取り組み」「現状分析」「今後の諸寄地区の在り方」などについて、委員と本学教員間の意識共有を図った。その中で本学教員より助言・提言を行うほか、意見交換も行われた。また、辻村助手による委員向けの勉強会を実施した。（内容は地域活性と地域創生に関するもの）

令和 3 年度の取り組みとしては、「諸寄地区が今後どういったまちであるべきか」という点について重点を置くこととなり、具体的なイベント実施などについては令和 4 年度に開催する方向となった。



図 1 諸寄活性化委員会への参加の様子



参考資料 「諸寄港」まち歩きマップ

◆テーマ **RICプロジェクト「新温泉町講師派遣支援事業」**◆研究者 教授 山中俊之、准教授 高橋伸佳、講師 石井路子

◆キーワード 各種団体への講演

## ◆概要

最先端の動向時流に即した高度な学習機会を得ること及び新温泉町の発展に寄与することを目的とし、本学教員を講演者として派遣する。

公民館事業である新温泉町高齢者大学や公民館講座、スポーツ推進団体・青少年育成推進協議会等の各種団体からのニーズに合わせた講演会を実施する。

## ◆事業内容

下記のとおり、講演等を実施（実施予定も含む）

(1) 新温泉町高齢者大学 一般教養講座・大学院講座

担当教員:教授 山中俊之

演題:第1回目「世界から見た日本の芸術文化の魅力」

第2回目「世界に誇る江戸時代のエコな生活」

対象者:新温泉町高齢者大学「宇都野学園」 学園生、大学院生

(2) スポーツ推進団体研修会

担当教員:准教授 高橋伸佳

演題:「地域資源を生かしたヘルススポーツツーリズム」

～生涯スポーツの推進とスポーツによる地域活性化を考える～

対象者:新温泉町スポーツ推進委員、スポーツクラブ 21 関係者、役場関係部局職員等

(3) 青少年を見守り育てる学習会（3月後半実施予定）

担当教員:講師 石井路子

演題:「未定」

対象者:町青少年育成推進協議会役員、町連合 PTA 協議会関係者、役場関係部局職員

## ◆成果及び今後の展開

参加者の知見の向上、各団体の今後の取組へ向けたきっかけ作り、芸術文化観光専門職大学と地域間の交流促進等、様々な効果が生まれ、今回の事業をきっかけに新たな事業展開が起こる可能性が生まれた。

また、地域住民の方へ芸術文化観光専門職大学の取組を知っていただく機会となった。今後も継続して、各団体の要望に合わせながら事業を実施する予定。



図1 山中教授による高齢者大学 大学院講座の様子



図2 高橋准教授によるスポーツ推進研修会の様子

◆テーマ **RICプロジェクト「夢ホール運営等研修及び人材育成事業」**

◆研究者 准教授 杉山至、講師 近藤のぞみ、助教 井原麗奈

◆キーワード 舞台美術 アートマネジメント 制作 音響・照明 地域との交流

## ◆概要

令和3年4月にリニューアルオープンした新温泉町の文化施設「夢ホール」において、一般住民・施設運営スタッフに向けた、本学教員による舞台美術、アートマネジメント、制作部門の講習会を実施する。運営スタッフの技術向上、会員増加・若年層会員の加入、企画運営担当の人材育成を目的として実施し、夢ホールの町民への周知やイベント開催の楽しさを知ってもらうことで、町民から愛される施設作りを目指す。また、本学学生も講習会に参加することにより、地域住民や運営スタッフの方々と交流を深めることも目的とする。

(補足) 本事業は、従来新温泉町で実施されていた「夢ホールステージオペレーター養成講座」に本学教員の講師派遣及び学生の参加をするものである。

## ◆事業内容

全4回の講習会を実施し、最終日に講習会参加者によって検定会を開催する。

- (1)舞台美術講習会の実施 担当：杉山准教授
- (2)アートマネジメント、制作講習会の実施 担当：近藤講師
- (3)音響・照明機器講習会の実施（講師は NPO 法人プラッツ、江原河畔劇場職員のアシスタントに依頼）
- (4)講習参加者による検定会の実施
- (5)学生参加者と地域住民・運営スタッフとの交流促進

## ◆成果及び今後の展開

講習会を通して、受講者の技術・知識の向上が見受けられた。また講習会の中で、他の文化施設の取り組み紹介やグループワークを通じて、夢ホールで取り組めていけそうな事例発表等、今後の事業運営にあたって参考となるアイデアが多数見られた。一般参加者、運営スタッフから「新たな視点に気付いて、今後の参考になった」等の意見も挙がった。

学生の参加により、地域住民との交流促進にもつながり、コミュニケーションをとる姿や他事業への波及など、様々なつながりが感じられた。

今後は、内容を精査しながら継続的に事業実施の予定。



図1 舞台講習会の様子



図2 アートマネジメント・制作講習会、音響講習会の様子

◆**テーマ** The Present Perfect in English: From Semantic, Evolutionary, and Contrastive Perspective (開拓社, 2021)

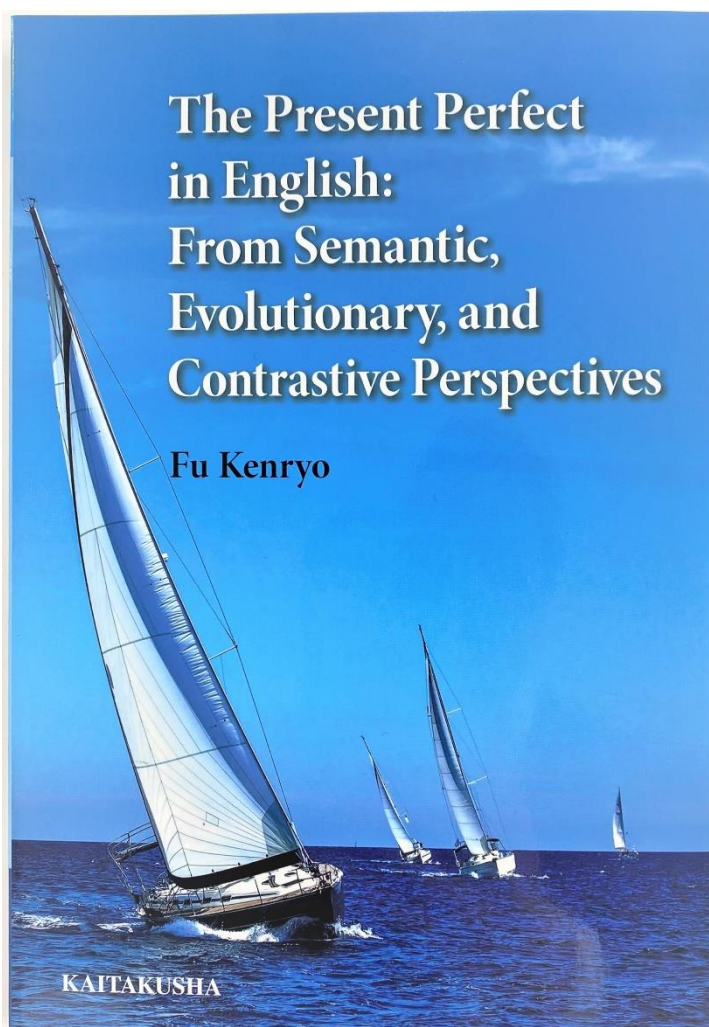
ORIGINAL

◆**研究者** 講師 傅建良 (Fu Kenryo)

◆**キーワード** 英語学 言語学 意味論 対照言語学 文法化 現在完了形 テンス アスペクト

◆**概要**

英語の現在完了形は現在と過去という二つの時間の関係を表す複合時制である (Leech, 2004; Huddleston et al, 2002 等)。古英語まで遡ると、現在完了形は現代英語と異なり、“I have my work finished.”のような語順だった。また、例文 “Einstein has visited Princeton.”はアインシュタインが生きている間のみ適格であるという見解がある。更に、口語では “I seen it.”のような「間違い」が無視できないほどある。本書は、意味論、文法化及び英語・日本語・中国語三言語対照の視点から、この謎多き英語の現在完了形の本質に迫る。





◆テーマ シリーズ “パフォーミング・ライブラリー（演じる図書館）”◆研究者 学術情報センター長 熊倉敬聡◆キーワード 図書館 パフォーマンス ワークショップ

## ◆概要

本学の学術情報館は、いつもは静かに読書し勉学に励む場であるとともに、時にパフォーマンス＝演じる図書館でありたいと考えます。段状に吹き抜けた建築的構造や、グランドピアノなどの設備も活用し、学生、教職員、地域住民が思い思いのパフォーミング・アーツを繰り広げる。さらには、「図書館」、「本」、「言葉」自体が既存の形にとらわれずパフォーマンス＝演じることができるよう、利用者との新たな出会い方を演出するワークショップなどを企画しています。

◆第1回：諏訪綾子ワークショップ～狩猟採集からパフュームをうみだす「テイストハンティング」in 本の森～  
食、感覚、本能、あじわうことをテーマに独創的なパフォーマンス、展示を世界的に繰り広げてきたアーティスト諏訪綾子。今度の舞台は、本学の学術情報館と豊岡の街。ワークショップ参加者は、「本の森」で狩猟採集したインスピレーションを手掛かりに、豊岡の街の中で「テイスト」をハンティング。そして、自分だけの「におい＝パフューム」を制作する。



図1 諏訪綾子ワークショップの様子

◆第2回：book pick orchestra ワークショップ～本と人をつなぐことから、新たな関係性が生まれる～

人と本の出会いをつくる「book pick orchestra」。ひとりずつ話を聞いて即興で本を選ぶイベント「SAKE TO BOOKS」、人と本から、本と本、人と人をつないでいくワークショップ「Sewing books」など、美術館やギャラリー、オフィス、ホテルなどさまざまな場所で、空間に本を選ぶだけではなく、どのように人が本と出会い、本とともに時間を過ごしていくか考えながら、人と本のあいだをつなぐ体験をデザイン・企画している。その代表である川上洋平氏をゲストに迎え、学術情報館の図書、本棚、空間について新たな「使い方」を喚起させるワークショップを行ってもらう。



図2 book pick orchestra ワークショップの様子

## ◆テーマ 『GEIDO（藝道）論』（春秋社、2021）

◆研究者 教授 熊倉敬聡

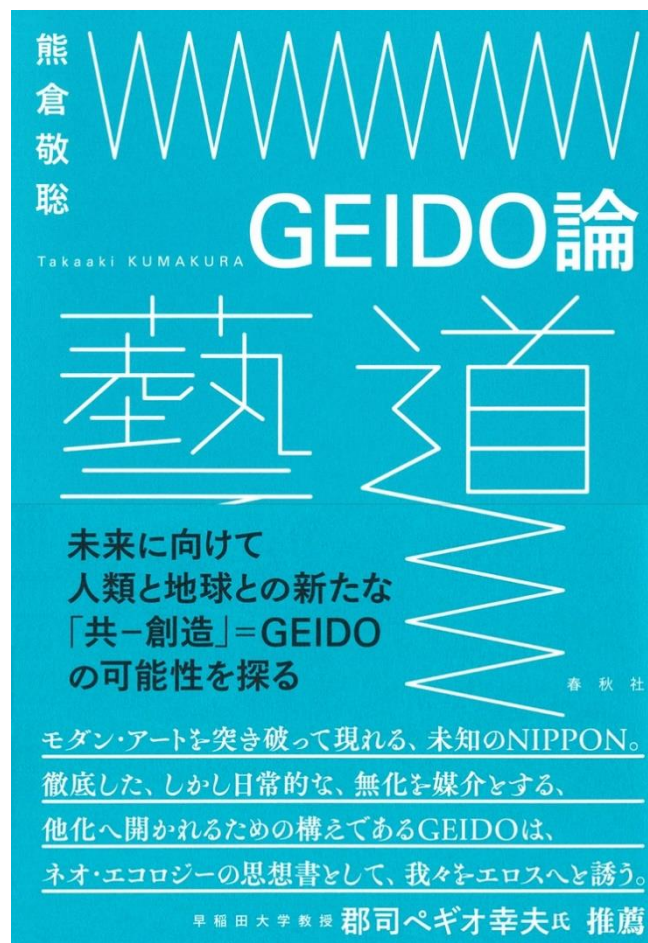
◆キーワード 一休宗純 藝道 Art Covid-19 限界芸術 民藝 一遍 ハイデガー 瞑想 脱哲学  
和辻哲郎 脱風土化 九鬼周造 偶然と美 性愛 貨幣 里山 わび茶

## ◆概要

西欧近代が作り出した概念であり実践である Art は今や人類史的使命を終えつつあるのではないか？—そうした問いから出発した前著『藝術 2.0』（春秋社、2019）は、人類が模索しつつある全く新しい創造性の形を、「藝」の字の由来（「植物に手を添え土に植える」）に鑑み、とりあえず「藝術 2.0」と名づけ、その芽生えを、工芸、発酵、場づくり、坐禅、学び、コミュニティ、茶道といった多様な分野でイノベーションする変革者たちの冒険の中に探り当てていった。

本書『GEIDO 論』は、「藝術 2.0」を古来の「藝道」に根づかせながら、現代的感性により再デザインする新たな創造的実践を改めて「GEIDO」と名づけ直し、その人類史的可能性をさらに探究していく。

風狂の禅僧、一休宗純が晩年うら若き盲目の琵琶弾き森女とともに住まい行じた一休寺・虎丘庵に今も書かれている「美の暗号」を手がかりに、「限界芸術」「民藝」といった近接概念を洗いなおしつつ、さらに一遍の踊躍念仏、ハイデガー、和辻哲郎、九鬼周造などの哲学を批評的に吟味し、人類が Covid-19 に見舞われつつある今、GEIDO の創造性と美の探求がいかなる人類史的意義を蔵するか考究する。さらには、GEIDO という概念・実践が、性愛や貨幣といった領域をも、根源的にイノベートする潜在力を秘めていることを論証していく。最後に、ある「生命芸術」家による里山の再創造の挑戦と、現代の「わび茶」の実験とがはるかに共鳴しながら、文明の「どんでん返し」を狙う様を目撃する。



## ◆テーマ “多様性について” 「現代社会」の高校特別講義”

◆研究者 助教 高橋加織

◆キーワード ジェンダー LGBT 多文化共生

### ◆概要

高等学校 1 年生向けに、「多様性」をテーマに、「現代社会」の特別講義を行った。受講者の興味関心について把握するため、事前アンケートを行った。その結果、LGBT について興味関心を抱く生徒が多いことがわかった。アンケート結果をもとに、海外の事例を踏まえ、LGBT および多様性について、日本との比較を行った。生徒と活発な意見交換ができた。ふりかえりシートから、LGBT に関する理解が深まったことがわかった。

### ◆研究内容

#### ・マレーシアについて

マレーシアと日本におけるさまざまな違いを紹介し比較した。マレーシアは、言語、民族、宗教、諸習慣など、一人ひとりがそれぞれ異なることを前提とし、日々の生活を繰り広げていることを紹介した。

#### ・ジェンダー役割について

マレーシアの事例を紹介した。掃除やお料理はお母さんがすること、お父さんは仕事で忙しいから家事はあまり手伝わないというようなジェンダー化された役割について理解を深めた。

高等学校の 1 年生は、これからの進路を考える時期である。文系は女子、理系は男子などの考え方もジェンダー化されていることを学んだ。

#### ・LGBT について

ジェンダー役割の話に加えて、LGBT について話した。LGBT という言葉は聞いたことがあるが、よくわからないという生徒が多かった。人はそれぞれ異なる指向を持ち、異なることが当たり前であり、素晴らしいことに気づききっかけづくりとなった。

### ◆成果

- ・人は一人ひとり異なることを学んだ。
- ・マレーシアの事例から、他者を理解することの大切さおよび多文化共生について学ぶことができた。
- ・LGBT について理解を深めることができた、
- ・コメントを通し生徒の考えを知ることができたと同時に、性的マイノリティへの支援団体を共有することができた。

◆テーマ **ユニバーサルツーリズム (UT) 人材養成に係る研究**◆研究者 **助教 中村 敏**◆キーワード **ユニバーサルツーリズム インクルーシブ教育**

## ◆概要

介護福祉士として 10 年以上に渡り障害者の移動支援に従事してきた経験を活かし、豊岡市内をはじめ但馬地域を拠点に活動している NPO 法人“ぶろじえくと plus”や任意団体“INCREW”と協力し、但馬地域でのユニバーサルツーリズム人材養成に係る研究を進めている。

兵庫県においては、知事のリーダーシップにより、全国初の UT 条例を目指した機運が高まっており、2022 年度からは UT 推進に向けた更なる研究が期待される。

## ◆研究の背景

高齢化や多文化共生社会に対応するための産学連携による取り組みについては、地域社会からの強い要望があり、但馬地域の NPO 法人等からの相談が地域リサーチ&イノベーションセンター (RIC) に寄せられている。

近年、全国各地にバリアフリー旅行相談窓口が開設し、兵庫県では神戸 UT センターが全国に先駆けて開設し、姫路 UT センターが続くなどの動きを見せているが、但馬地域には一つも開設されていない。日本を代表する魅力的な観光資源を持つ但馬地域において、UT が未整備であり、大きな課題を抱えている。

UT に対応した人材の養成は、観光事業者だけに限らず、学校教育現場のインクルーシブ教育にも大きく関わっている。障害者差別解消法が施行されて以降、公立学校等が障害のある子どもが教育を受けることを拒否すること、場所や時間帯を制限することなどが禁止され、合理的配慮の提供が法的義務となっている。

## ◆ツーリズムに係るインクルーシブ教育の実施

2021.8.3～8.30、文部科学省が推進するインクルーシブ教育に関する専門的な知識と、それに必要となる専門機材の高度な技術の取得と運用、今後の包括的な教育的指導ができる人材育成を目的としたユニバーサルフィールドツアーインストラクター (UNITI) 養成講座を実施した。

キャンプ事業やカヌー・カヤックなどの観光アクティビティを提供する観光事業者、支援学校の教員・障害を抱える子どもをもつ保護者などの学校関係者や、社会福祉協議会などの福祉人材など、多様なステークホルダーが、山岳と海をオールラウンドに扱えるライセンスを取得し、市民たちによる草の根レベルでの取り組みが加速している。

## ◆ユニバーサルデイキャンプ “アルプ”の開催

2021.11.19、但馬高原植物園において水陸両用アウトドア車椅子を使用し、車椅子ユーザーのモニターを迎え、ユニバーサルデイキャンプ“アルプ”を開催した。地域の社会福祉協議会、介護福祉サービス事業所、マスコミ数社および、神戸ユニバーサルツーリズムセンターからもゲストが参加した。



図1 毎日新聞 (丹波但馬) 2021年10月17日掲載



図2 ユニバーサルデイキャンプ アルプの開催の様子

◆テーマ “豊岡鞆産業の現状と課題 – 地域商標の活用を中心に – ”

◆研究者 教授 福嶋幸太郎 助手 辻村謙一 助教 中村嘉雄、助教 中村敏

ORIGINAL

◆キーワード 豊岡鞆、地域商標、地場産業

◆本研究のポイント

1. 豊岡市の鞆製造品出荷額は、常に日本一ではなかった。
2. 豊岡の鞆産業は OEM 生産が約 70%を占める。地域商標「豊岡鞆」の売上高は約 6%
3. 豊岡鞆産業では、新製品・新サービスの開発が最大の経営課題である。
4. 豊岡鞆産業では、技術力・商品サービス力・研究開発力が強み、環境対策・人材育成・営業力が弱み。

◆研究の事例

- ①実施時期：2021 年 10 月上旬
- ②調査対象：兵庫県鞆工業組合 61 社、20 社回答・回答率 31%
- ③調査方法：郵送調査、回答者匿名、郵送及び回収は著者
- ④カバー率：2018 年度豊岡市回答組合員 20 社の 2019 年度売上高は 91 億 25 百万円で、アンケート調査結果、売上高のカバー率は約 86%、同様に従業員数では約 54%

◆成果

(1) 付加価値が地域住民の所得や地方税収の源泉となる。付加価値の大きい産業が地域の中心的産業である。

(2) 1 位住宅賃貸業、2 位保健衛生・社会事業、4 位その他のサービス、5 位小売業は、地域に住む住民の利便性を確保する産業であり、非基盤産業である。地域人口を維持・増加させる（毎年 1%以上の人口減）には、労働力を吸収する基盤産業が不可欠。基盤産業は、3 位金融・保険業、6 位その他の製造業。

(3) その他の製造業に鞆製造業が含まれる。29 年間平均の当該産業の付加価値額は約 51 億円で、その他製造業の約 1/3 を占めている。製造業への産業振興が必要。

項目	内容
事業所あたりの付加価値額	1991年度の6538万円よりも、2017年度の9697万円（1991年度比148%）が、29年間で最大。事業所の大規模化が進み、事業所あたりの付加価値額は高まっている
従業者あたりの付加価値額	1991年度618万円がピーク。2018年度は461万円でピーク時の75%
従業者あたりの製造品出荷額等	1991年度1610万円がピーク。2018年度は1128万円でピーク時の70%
労働分配率	1991年度の38%に対して、29年間平均で51%、2018年度は53%。2017年度経済産業省調査の製造業平均の労働分配率は46%で、5ポイント高い
従業者あたりの現金給与	29年間平均の従業者あたりの現金給与は243万円と低く、2020年度同業全国平均299万円*1と対比して、56万円も低い
売上総利益率	29年間平均で40.2%。1991年度は38.4%と平均を下回る。一方、2015年度は51.1%と最高で、これ以降低下傾向、直近2018年度は42.4%

図 1 豊岡鞆産業の実態 1

	G12-1	G12-2	G12-3	G12-4	G12-5	G12-6	G12-7	G12-8	G12-9	G12-10	G12-11	G12-12	G12-13	G12-14
販売・営業力	47	60	64	58	52	50	44	55	56	53	42	47	52	51
商品・サービス力	59	75	80	74	65	63	55	69	70	66	53	59	65	64

図 3 豊岡鞆産業の実態 2

年次	事業所数	従業者数	現金給与総額	原材料使用額等	製造品出荷額等	付加価値額
(年)	(計)	(人)	(万円)	(万円)	(万円)	(万円)
1990	157	1,663	372,671	1,676,253	2,633,177	943,621
1991	163	1,725	401,078	1,695,219	2,777,171	1,065,765
1992	153	1,650	414,793	1,600,923	2,569,348	953,198
1993	147	1,512	372,570	1,440,123	2,269,842	813,097
1994	141	1,434	358,205	1,309,081	2,021,614	697,160
1995	136	1,295	328,009	1,107,700	1,772,950	651,806
1996	126	1,209	299,290	1,015,939	1,611,353	582,323
1997	118	1,113	291,368	919,436	1,400,855	465,197
1998	104	968	264,886	847,724	1,276,378	411,026
1999	101	949	234,275	728,853	1,169,485	423,359
2000	92	913	214,698	628,074	1,019,194	376,421
2001	83	810	180,661	443,197	779,209	320,372
2002	70	787	188,355	384,590	693,470	295,073
2003	64	799	185,522	373,342	715,531	326,503
2004	59	762	188,261	318,665	682,169	346,550
2005	74	844	207,890	416,047	774,047	341,032
2006	67	853	218,375	466,671	855,213	371,097
2007	66	842	226,883	517,592	924,068	391,467
2008	73	1,034	252,756	519,370	1,022,284	479,126
2009	68	887	224,378	465,737	829,578	346,635
2010	62	861	218,908	400,949	767,032	348,743
2011	66	959	255,564	519,550	995,378	457,250
2012	62	911	212,703	443,298	899,456	425,195
2013	62	976	237,098	518,072	1,060,268	517,644
2014	62	1,078	264,734	568,062	1,133,051	527,282
2015	72	1,296	258,782	521,906	1,163,456	594,876
2016	54	1,053	283,163	570,756	1,082,031	473,617
2017	49	1,030	232,036	528,104	1,040,022	475,145
2018	52	1,072	237,394	578,484	1,065,584	451,591
年平均	90	1,082	262,942	742,197	1,275,628	512,833

図 2 豊岡鞆産業年代変化

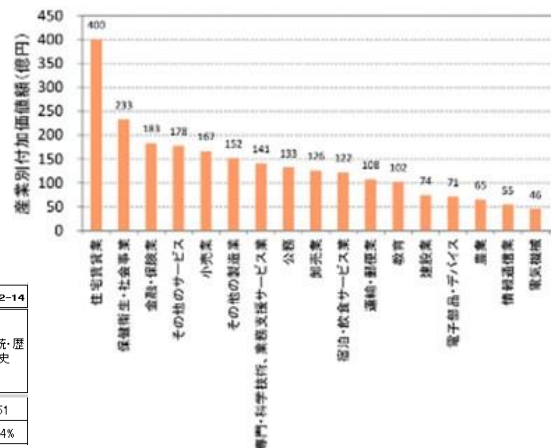


図 4 豊岡付加価値産業の業種別比較

◆テーマ “キャッシュ・マネジメント・システム (CMS)”

- ◆研究者 教授 福嶋幸太郎
- ◆キーワード フィンテック グループファイナンス  
グローバルキャッシュマネジメント

◆CMSとは

企業財務（企業金融）の仕組み。同一資本企業で生じる毎日の資金過不足を提携銀行と連携し、ゼロバランス(毎営業日終了後に CMS 口座残高を 0 円にする操作)・EB (Electronic Banking) ・インターネット・アプリケーションを活用して、運転資金を調整。グループ全体の現預金を一元管理し、その資金量を圧縮する企業の重要な財務管理基盤。

◆CMSの特徴

東証一部・二部上場企業の46%がCMSを導入済。CMSのアプリケーションは、主にメガバンクが提供。そのため、地域金融機関や中小企業ではCMSの実態が知られていない。

◆CMSが導入されると…

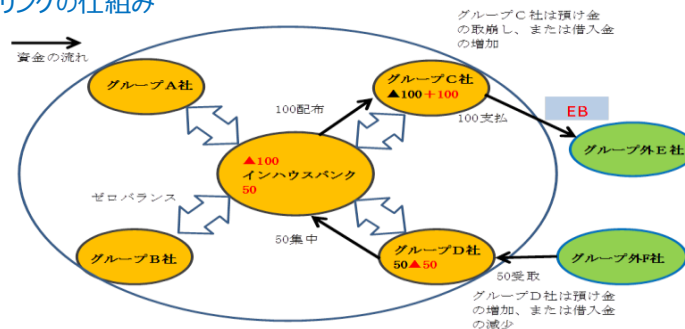
銀行に代替してインハウスバンク（企業内銀行）がその役割を担うため、企業の銀行預金・融資がなくなり、銀行経営に影響する。

◆CMSの特徴

機能名称	内容
①キャッシュ・プーリング	グループ内にインハウスバンクを設定し、参加会社との間で運転資金を毎日貸借取引をする機能 →銀行預金・融資がなくなる
②長期CMS	インハウスバンクが、参加会社の設備投資資金（長期資金）を貸付ける機能
③ネットィング	決済資金を使わず、参加会社の債権債務を相殺する機能
④支払代行	インハウスバンクが参加会社に代替して、その取引先へ支払いをする機能
⑤回収代行	インハウスバンクが参加会社に代替して、その取引先から代金回収をする機能
⑥GCMS	海外の参加会社も含めて、USD・ユーロなど国際通貨で、グループ全体のCMSを運用する機能



◆主要機能キャッシュ・プーリングの仕組み



◆インタビュー調査対象企業のCMS・GCMS導入状況

	CMS				GCMS	
	CP	長期CMS	ネットィング	支払代行	採否	地区
エネルギーA社	○60	○	○60	×	○7	限定なし
陸運B社	○66	○	○66	×	×	
繊維C社	○26	×	×	×	○30	欧州・北米・中国
陸運D社	○55	○	×	○25	×	
機械製造E社	○29	○	○29	○29	○14	欧州・北米・アジア
非鉄金属F社	○53	○	○20	○20	○250	欧州・北米・アジア
機械製造G社	○43	○	×	○20	○不明	欧州・北米・中国
陸運H社	○41	○	○34	○34	×	
化学I社	×	×	×	×	×	
繊維J社	○36	○	×	×	×	
化学K社	○16	×	×	×	○28	欧州・中国
エネルギーL社	○43	○	×	○不明	×	
金属製造M社	○75	○	○不明	○不明	○20	北米・中国
建設N社	○27	○	○27	○27	×	

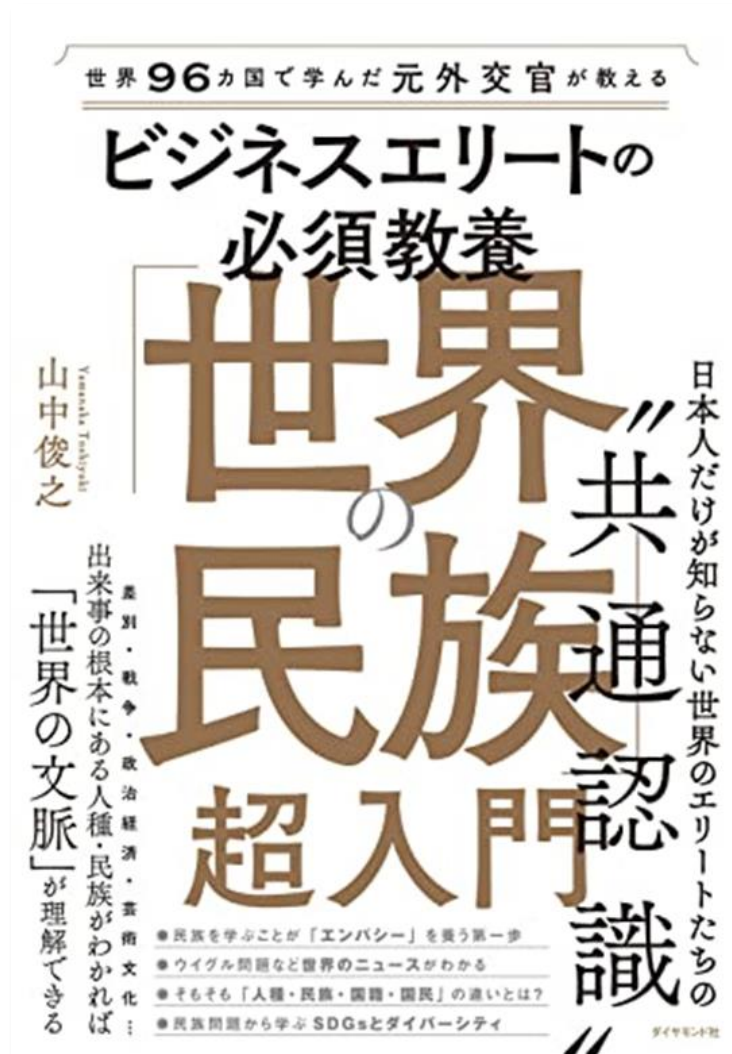
## ◆テーマ “『世界の民族超入門』（ダイヤモンド社）”

◆研究者 教授 山中俊之

◆キーワード 民族 人種 言語 宗教 SDGs ダイバーシティ 先住民

## ◆概要

- ・ダイバーシティとSDGsが大きな課題になる中、世界の多様な民族について理解することは必須である。
- ・しかし、民族は定義自体が難しい面があり、地域によってとらえられ方が違う。例えばインドでは言語と結びつけて理解されることが多いが、米国ではまず人種の違いが全面にでることがある。
- ・アジア、ヨーロッパ、中東、アフリカ、南北アメリカの各地の民族の特徴について、歴史、宗教、地政学、芸術文化など触れながら解説する。
- ・日本国内の民族問題、人種差別問題、移民・難民など現在社会で看過できない課題について解決の方向性を提示する





芸術文化観光専門職大学  
Professional College of Arts and Tourism